

## 活躍する 修了生

### 夏目 麻央 弁護士

2014年度 法学既修者コース修了  
山口崇法律事務所



今年監修した本を手に  
「わかる!役に立つ!法律の教科書」(学研プラス)

私が弁護士を目指したきっかけは、大学時代に、子どもの権利についての弁護士の授業を聞いたことでした。当時の私は教員を目指していましたが、弁護士になれば、審判に付き添い、家族や学校と環境調整をして非行をした子の立ち直りを支援したり、家庭の問題にも専門的なアドバイスができる等の実質的な助けになれると思いました。しかし私はその後遠回りをし、塾講師や中学校の教員を経て、結局、大阪大学高等司法研究科に合格したときは、長女は1歳で次女を妊娠していました。

本校は、学内保育所や自習室などの環境も整っており、教職員の皆さんも私の挑戦を温かく応援してくれました。また、同級生たちは、学校に滞在時間が少ない私のために勉強や情報を教えてくれ、とても親切に接してくれました。

その結果、私は、次女を初年度の夏休みに出産し、そのまま留年することなく、司法試験に合格することができました。

現在、弁護士として、一般民事や刑事事件に広く取り組んでいます。当初の目標であった子どもに関係する仕事もたくさんさせていただいています。やはり出張授業等の教壇で子ども達の前に立つととても懐かしく、嬉しい気持ちになります。また、教員時代の同僚とも、弁護士として一緒に仕事をすることがあります。古からの友人の事業に弁護士として参画することもあれば、今まで接することのなかった方と出会い、交流できる機会もあります。このように弁護士の仕事はとても幅が広く、たくさんの世界を見ることができるのが魅力だと感じています。

最近、子ども向けの書籍を監修させていただいたのですが、これも中学校のときの同級生から依頼を受けたものです。どの仕事も、誰かが辛い状況から抜け出したり、前を向いたり、まずは今日、久々にゆっくり眠れる一助になればいいなという気持ちで取り組んでいます。本校で学んだこと、皆さんからいただいた優しさを世の中に返せるようにこれからも努力していきたいと考えています。

## 修学支援事業基金(高等司法研究科)へのご寄付のお願い

### 高等司法研究科には独自の給付型奨学金制度があります

高等司法研究科では、学生に対する独自の給付型奨学金を2020年度に1名に対して給付しました。2021年度も奨学金給付を予定しています。この奨学金は、経済的理由により修学が困難な本研究科の学生を支援するため、個人や企業・団体の皆様からのご寄付を基金として運営されています。この取組を継続し、意欲ある学生を一人でも多く社会に送り出すため、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

詳しくは、WEBサイトをご覧ください。



#### 【お問い合わせ】

大阪大学大学院高等司法研究科  
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-6  
TEL : 06-6850-5973  
HPアドレス <http://www.lawschool.osaka-u.ac.jp/>

#### 【発行元】

大阪大学大学院高等司法研究科  
発行:2021年11月1日



# News Letter

【ニューズレター】

No. 23  
2021

大阪大学大学院高等司法研究科  
■ 法科大学院 ■



### 研究科長からのご挨拶

## 「さらなる高みを目指して」

### 高等司法研究科長 水谷 規男

大阪大学大学院高等司法研究科  
令和3年  
司法試験合格体験報告会



2021年の司法試験では、本研究科の修了生47人が合格しました。今年は短答式試験の合格率が当面の目標としていた80%を超えました(115人受験、94人合格)。そこで、最終合格者の数も3年ぶりに50人を超えることを期待していたのですが、短答式合格者のちょうど半分が合格ということになりました。未修、既修の別でみると、既修者の合格率は54.67%(全国平均は45.45%)、未修者の合格率は15.00%(全国平均は18.17%)でした。既修者は引き続き堅調であるものの、昨年に続いて未修者の合格率が大幅に下がったのが特徴です。

本研究科は、社会人、他学部出身者のための特別選抜を実施して入学者の多様性確保を重視しており、2019年度入試からは「グローバル法曹」枠の特別選抜を設けるなどの工夫を

重ねてきました。それだけに、未修者の司法試験合格率が全国平均を下回ったことは、深刻な事態だと考えています。今後、在学生だけでなく、今年は結果を残せなかった修了生に対する学習支援を強化し、来年度以降の司法試験で成果を上げられるような取組を進めていきたいと考えています。引き続き、皆様のご支援をお願い致します。

### 法曹コースからの学生の受入れ

今年度は初めて法曹コースを修了する法学部の学生が法科大学院入試を受験します。法曹コース修了生を対象にした入試には、法科大学院と協定を結んでいる法曹コースの修了者のみを対象とするもの(5年一貫型)と、すべての法曹コース修了者を対象とするもの(開放型)があります。大阪大学大学院高等司法研究科は、現在、大阪大学法学部との間で法曹コースに関する協定を結んでいます。

9月11日に5年一貫型の入試が実施され、大阪大学法学部から6名が受験しました。5年一貫型入試の募集定員は12名程度となっていますので、定員の半分しか出願がなかったこととなります。もっとも、本学法学部の法曹コースを3年で修了する(早期卒業が認められる)見込みの方は全員、5年一貫型

を受験しており、受験者が少なかったのは法曹コースの修了者(早期卒業者)が少なかったことによります。

早期卒業をするためには1年次を終える段階で登録が必要となり、その後も優秀な成績を取める必要があります。今年度の早期卒業資格がある学生が早期卒業の登録をした頃は、法曹コースの認知度も十分に高いとはいえなかったことも、今年度の早期卒業見込み者の数が少なくなってしまった一因と考えられます。法曹コースの説明会の開催等、認知度を高める努力が実を結べば、来年度以降は5年一貫型の出願も増える予想されます。法曹コースに登録している学生が法科大学院の講義を受講できる制度など、法曹コースと法科大学院のつながりを周知していきたいと考えています。

(アドミッション委員会委員長 松尾 健一)